

コウノトリってどんな鳥なの？

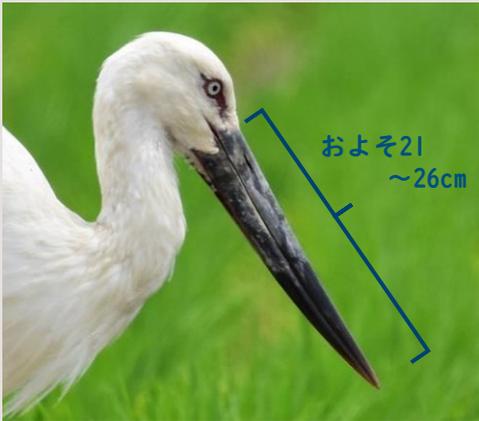
コウノトリは、湿地に暮らすとても大きな鳥で、おかしは日本のあちこちで暮らしていました。明治時代に入ると、いろいろな理由(※)でコウノトリが次々と姿を消してしまい、1971(昭和46)年に、日本の野生のコウノトリは絶滅してしまいました。

※主な理由・・・①たくさんのコウノトリが人に捕まえられた ②第2次世界大戦中にコウノトリが巣をつくるための松の木がたくさん切られた ③田んぼや湿地が減ったり、農薬をたくさん使うことでえさとなる生きものが減った

◆コウノトリのデータ◆

- 【分類】(ぶんるい) コウノトリ目 コウノトリ科 コウノトリ属
- 【学名】(がくめい) ※生物学での世界共通の呼び方
Ciconia boyciana(キコニア・ボイキアナ)
- 【和名】(にほんごのよびかた) コウノトリ
- 【英名】(えいごのよびかた) Oriental White Stork

◆くちばしの大きさ◆



およそ100~110cm
たいしゅう
体重はおよそ4~5kg

およそ175cm

4~5歳くらいの
こどもとほぼ同じ
おお
大きさです。

◆つばさを広げると・・・◆



およそ50
~60cm

こたい
みわ
あしわ
個体を見分けるための足環が
つけられています。

その後、日本の中で、最後までコウノトリが暮らしていた兵庫県を中心に、もう一度コウノトリを野外に戻す取り組みが始まり、いまでは、200羽以上(※)のコウノトリが野外で暮らしています。

※2021(令和3)年6月30日現在の野外個体数・・・238羽

(出典:兵庫県立コウノトリの郷公園HP)



写真提供: 横田 耕司 さん

写真はイメージです